

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あある まつりかフラワー		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		～ 2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 9日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	肢体不自由児、知的障害児問わず、外活動、室内活動共に体を使った活動を行ったり、制作などで手先を使った活動を行っている。	・外での活動では、祝日や長期休暇等の午前中に大きい公園に行き体を動かしたり、時間のある時は近隣の公園で活動、室内ではサーキットなどで体幹を使った活動を行ったり、手先を使った繊細な活動を行っています。 ・室内での活動では、その月の塗り絵や個人製作、全員で協力して作る制作活動を行っています。	・外での公園活動や制作活動の内容で児童が飽きる事の無いような活動を今後も考えて行く。 ・肢体不自由児の児童もより身体を使った活動提供をして行く。
2	本人の思いや自主性を大事に児童1人1人が自分でやりたいことや考え、自由活動内での他児童とのルール決めを児童本人が決める職員が提供、支援を行っている。	危ないことやケガにつながりそうなこと以外は、児童本人が活動できるように支援し、小規模な集団での活動、1人での活動等児童が自分自身で考えたことを支援している。	・児童がいろいろなことに興味を持てるよう声かけ、促しをしつつ少しでも遊びの幅が広がるよう支援していく。 ・肢体児童、知的児童との関りを今以上に増やせるよう声かけ、促しを行っていく
3	小学校1年生～高校3年生の児童が関わり合い、学び合える支援を展開出来るようになっている。	低学年～高学年まで同じ空間で過ごし、大きい児童は小さい児童との関りを覚えられるよう支援し、小さい児童は大きい児童の行動を見て学べるよう支援している	児童1人1人にあった声かけ、促し等の支援をより強化し、その子にあった空間での学びをさらに深めていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	2025年12月より会社の方針で体制が変わり、20名定員の事業所から10名定員の事業所に変更になったこと。	20名から10名に変更した際、児童、保護者の方に不安感を与えてしまった。	変更後、協力していただいたご家庭、不安感を与えてしまったご家庭へ今後も安心・安全にご利用していただけるよう努めていく。
2	施設内が2分化されていてトイレが2つあるが、活動スペースの1つの部屋にしかない為トイレ介助、誘導時、職員がついていき、トイレのない室内での対応人数が少なくなってしまう。	改築する際もともとあった部屋にのみトイレがあり新しく作った部屋にはトイレを設置しなかった。	安全かつ安心して通ってもらえるよう職員の動き等でバックアップしながら支援していく。
3	保護者会が開催できていない	コロナの影響等で開けていない時期からの流れでいまだ開催出来ていなかった。	今後開催できるよう日程調整、段取り等決めていき、開催出来るよう努力していく。